

一般研究集会（課題番号：28K-04）

集会名：第 11 回南アジアにおける自然環境と人間活動に関する研究集会

ーインド・バングラデシュと周辺諸国における防災知識の共有を考えるー

主催者名：京都大学防災研究所，共催：京都大学東南アジア研究所実践型地域研究推進室

研究代表者：浅田晴久

所属機関名：奈良女子大学

所内担当者名：石川裕彦

開催日：平成 28 年 12 月 23 - 24 日

開催場所：京都大学宇治キャンパス 黄檗プラザ

参加者数：24 名 (所外 21 名，所内 3 名)

・大学院生の参加状況： 0 名

研究及び教育への波及効果について

南アジア諸国における自然災害について，気象学の研究者だけでなく地理学や文化人類学，農学などの研究者，さらには NGO 実務者も交えた学際的な協働によって，地域の実態に即した防災計画の検討を試みる．

研究集会報告

(1)目的

本研究グループは過去 10 年以上にわたり，気象調査班は独自の気象観測網をインド北東部とバングラデシュに構築してモンスーンによりもたらされる極端現象（洪水，竜巻，高潮など）の解明に努め，在地調査班は同地域で長期フィールドワークを行い地域社会が直面している課題（離農，民族紛争，在地技術など）を明らかにしてきた．本研究集会では，両班のこれまでの研究成果を突き合わせることで，各地域において実践可能な災害対策を議論する．

(2)成果まとめ

本研究集会では，南アジアのインド，バングラデシュ，ネパール，ミャンマーで調査・研究を続ける国内外の研究者が多数集まり，2 日間かけて 18 件の発表が行われた．1 日目のセッション 1 では，地上気象観測，衛星観測，モデル予測に基づいて，南アジアの気象災害の発生メカニズムと将来動向などについて議論が行われた．セッション 2 では，気候変動や気象災害の結果，地域社会で発生した問題について，ミャンマーとネパールの事例が発表された．2 日目のセッション 3 では，インド北東部とバングラデシュの社会と生業活動について，歴史時代から現代まで幅広い時間スケールから議論が行われた．セッション 4 では，バングラデシュの農業と農村をめぐる今日的な問題について，農学と人類学の立場から報告が行われた．個別の報告は必ずしも学際性が高いものばかりではなかったが，2 日間の研究集会全体では気象のメカニズムから地域の災害，生業への影響，社会問題と，参加者の問題意識が地域という共通項を介してリンクしており，専門分野を異にする者でも協力し合える余地が大きいことが確認された．また今回はそれぞれのカウンターパートである外国人研究者を招待したことで，各国で発生している気象災害と社会の影響について，地域を越えた共通性と地域固有の特異性を理解し合えたことも大きな成果であった．今回の研究集会を契機として，参加者の間で新たな共同研究の試みが芽生え，南アジア地域の防災研究にさらなる貢献がなされることが期待される．

(3)プログラム

12月23日（金）

- 13:30-13:40 趣旨説明 浅田晴久（奈良女子大学）
- セッション 1 座長 林 泰一（京都大学）
- 13:40 今年のチェラプンジ活発期の状況
村田文絵（高知大学）
- 14:00 Comparison of three kinds of rain gauges at the heavy rainfall condition in Sohra of Meghalaya
林 泰一（京都大学）
- 14:20 インド・アッサム州北部の豪雨事例解析
福島あずさ（神戸学院大学）
- 14:40 インド亜大陸東北部における降水現象の季節推移の変動について
木口雅司（東京大学）
- 15:10 ひまわり 8 号の高頻度データで見るバングラデシュ・インド東部のシビア・ストーム
石川裕彦（京都大学）
- 15:30 インド・アッサム州におけるシビアローカルストームの経年変化傾向—ムクタプル村での聞き取り調査から
山根悠介（常葉大学）
- 15:50 Global-scale river flood vulnerability in the last 50 years
田上雅浩（東京大学）
- セッション 2 座長 浅田晴久（奈良女子大学）
- 16:20 Natural Disaster from 2012 to 2015 in Myanmar: The Comparison between Kyone Soke Village, Maubin Township and Thanbo Island Village, Patheingyi Township
Khin Ohnmar Htwe (Myanmar Environmental Institute (NGO)), Kazuo Ando (Kyoto University),
Koichi Usami (Nagoya University), Nobuhiro Ohnishi (Kyoto Gakuen University)
- 16:40 Impacts of drought and tourism development on reducing farmland and the contribution of households' income in Bagan-Nyaung U area
Mar Mar Win（京都大学・Department of Agricultural Research, Myanmar）
- 17:00 Rural Urban Migration and Rural Depopulation in Ayeyarwady Region: Case Study of Pyapon Township
Myint Thida（京都大学・Yangon University）
- 17:20 An impact of landslides on the socio-economic condition of people in Nuwakot, Nepal
Dipendra Dhakal（東京農業大学）

12月24日（土）

- セッション 3 座長 安藤和雄（京都大学）
- 9:00 アジアの土地開発史パターンの対比
宮本真二（岡山理科大学）
- 9:20 Agroecosystems in the Brahmaputra Valley, Assam: Changes, Challenges and Sustainability
Nityananda Deka（Gauhati University）
- 9:40 アッサム州におけるアホミヤ、ボド、ネパリの村落生活
浅田晴久（奈良女子大学）
- セッション 4 座長 内田晴夫（京都大学）
- 10:20 バングラデシュの稲作における近年の在地の技術の展開: 持続的発展に向けた農民主体の取組
安藤和雄・内田晴夫（京都大学）

10:40 Assessment of water quality as affected by herbicide application in the rice field of Bangladesh

Md. Rashedur Rahman (京都大学・バングラデシュ農科大学)

11:00 New Agricultural Technology and Its Impact on Rural Households in Bangladesh

Md. Siddiquir Rahman (桃山学院大学・ジャハングルノゴル大学)

11:20 バングラデシュ農村出身の若者たちにとっての『都市』

南出和余 (桃山学院大学)

11:40-11:45 閉会の辞 石川裕彦 (京都大学)

(4)研究成果の公表

京都大学防災研究所 共同利用「研究成果報告書」(CD-ROM 版)を作成して公表する.

タイトル:平成 28 年度京都大学防災研究所 研究集会 28K-04

「第 11 回南アジアにおける自然環境と人間活動に関する研究集会 —インド・バングラデシュと周辺諸国における防災知識の共有を考える—」

研究代表者:浅田晴久